

## 第 4 回推進委員会ワークショップでまとめられた原因キーワード

第 4 回の推進委員会に関心の高かったキーワードは以下の13個です。似た趣旨のキーワードはまとめています。

キーワードは、資料 4 を検討しやすいよう原文から表記を改めています。すべてのキーワード、原文は次紙以降を参照ください。

①市民と行政が、理想を共有していない	⑦市民の市民活動に対する理解が十分ではない（趣味の会＝市民活動）
②市民活動団体が、活動するための安定的な資金確保ができていない	⑧オンラインの交流に必要な対策がされていない
③市民と行政が、お互いを信頼できていない	⑨市民活動団体が外部とつながりをもつチャンスがない
④市民活動をする人が、自分の活動に積極的な関わり方をしない	⑩市民活動をする一部の人に負担が大きく、負担の分散ができていない
⑤市民活動団体が、活動内容・方法等を、時代に合わせて迅速に変更しない	⑪団体の連携や、団体が信頼感を得るための第三者（自治体）の介入がない
⑥市民活動団体が、活動を発展させた時に求められる変化に対応できていない	⑫団体が活動を継続するために必要なリーダーとなる人がいない
	⑬市民活動団体と行政の事業の進め方の違いをお互いが理解できていない

第4回推進委員会ワークショップまとめ (Aグループ)

項番	表紙番号	関心度※	シール	キーワード	掘下げ
1		○	1	市民参加を募りたい人と参加したい人がいるのに、活動の参加が促進されない	市民活動について情報発信がない
2				世代間の考え方の違いやツールの使い方	デジタル
3		○	2	楽しみ方ややりがいが見えてこない	
4				高齢者が多いため、若い人のギャップがあり難しい	
5		○	1	楽しむことの罪悪感	
6				まじめすぎる	
7	①	◎	4	<b>行政とビジョンの共有</b>	
8	①	◎	4	<b>ビジョンを共有する機会がない</b>	
9		○	1	市民活動の意識（市民活動と思っていない人を目覚めさせる）	
10				負の体験（トラウマ）	
11				いつとんあ活動があるか分からない	
12		○	1	団体間の協働支援の促進（異なる交流の活動がない）	
13				助けたい人と助けてほしい人がいるのに、助け合いに繋がらない	市民活動の情報がない
14				連携する気運・意識が弱い	
15		○	1	お金の扱いがあいまい	
16	②	◎	3	<b>資金は自主財源を目指す</b>	
17		○	2	時間的・金銭的余裕	
18		○	1	地域との関わり方が難しい	
19				児童生徒と保護者が参加する学校生活に市民活動の機会がない	市民活動の担い手が少ない
20	③	◎	4	<b>行政と市民の関係づくり</b>	
21			1	ボランティアと市民活動の理解、「市民活動」というとなじめない。	
22			1	市民活動団体がまじめ（固い）ため、行政も見まがえてしまうので消極的に。	
23			1	安定した活動計画がたてにくい	
24				会費以外の収入（ex 助成金・補助金を得るノウハウを知る）	公的機関の広報・周知
25				価値観の合う人に出会えない	
26		○	2	積極的な参加がない方の存在	
27	④	◎	3	<b>受身</b>	
28		○	1	各自が地域と協力することに（活動）積極的ではない	
29		○	1	関心・興味がない	
30		○	1	強制的に集められると終わるのをまつ意識	
31	⑤	◎	5	<b>スピード感</b>	
32	⑤	◎	3	<b>時代の変化に対応していない</b>	
33	⑥	◎	3	<b>活動がレベルアップした時の対応に注意</b>	
34		○	1	ゴール（終了）を認められない（終活ができない）	
35				市民活動というネーミング（光込観・崇高さ）	

※関心度は、シールの数が3以上のものに◎、1~2のものに○の評価としています

※項番26~30は、模造紙でグルーピングされています

第4回推進委員会ワークショップまとめ (Bグループ)

項番	表紙番号	関心度※	シール数	キーワード	掘り下げ
36		○	1	地域のまつりを行う組織がコミュニティ全体に影響を与えられていない	
37		○	1	活動内容が団体内で共有化できていない	
38		○	1	金銭的余裕	
39		○	1	時間的余裕	
40				時代に変化による行政の変化	政策の転換
41				積極的に参加されない方をどうするか	
42				ビジョンと活動の魅力があいまい	ビジョンなどの明確化
43				「市民活動」しているという意識と理解	
44	⑦	◎	11	<b>広く市民活動として位置づけられていない 趣味の会など</b>	
45				趣味の会が市民活動だと意識・理解できていない(文化継承)	
46				趣味の活動は「市民活動」か?	
47				市民活動と思われていない隠れた市民活動がたくさんある	
48				むずかしくないで市民活動を知る	
49				事業収入を得ることは悪いことではない	
50				自主財源	
51				〇〇でまちづくり	
52				市民や行政の理解を得るのが難しい	
53				学校教育の中に市民活動に係る機会が少ない	担い手不足
54				理念の明確化ができていない	理解の促進
55				交流するためのシステム構築がまだ	
56		○	1	交流の促進ができていない マッチング方法や手法の検討(多くは自治体の役割)	自治体の周知不足
57	⑧	◎	5	<b>リアルな交流が減る中、ネット上の交流が重要になるが、その対策ができていない</b>	
58				行政もICT化が遅れている	
59				助けてもらいたい人と助けたい人がいるのに助け合いにつながらない	信頼できる市民活動情報が提供されない・システムがない
60	⑨	◎	4	<b>チャンス 外部とのつながりがつかめない</b>	
61				選択のチャンス・日時・活動	
62				多様性のため対話を促すファシリテーターの育成がすすんでいない	
63				参加者の意識	手を出さない
64	⑩	◎	7	<b>負担 起ち上げた中心の人たち</b>	<b>負担が増える、やりたくない</b>
65				次々世代の育成	
66				新規参加者の取り込み	
67				活動の中心になる人がいない(リーダー)	
68		○	1	年配の方が多い 金銭的余裕	
69		○	2	時代に対応しながら成長する姿勢	
70	⑤	◎	6	<b>スピード ゆっくり→時代に対応</b>	
71				活動方法が固定観念化していると、状況に即した対応が困難	
72				ガバナンス不足	
73				後継者の育成不足	
74				資金の不足	
75				インターネットの導入不足	
76		○	2	持ち出し はじめは持ち出しが多いその後も資金getの道筋がつかない	
77		○	2	団体の資金調達が出来ていないのは調達のノウハウが分からないことが原因	申請がむずかしい
78	⑥	◎	3	<b>活動がレベルアップした時の対応に苦慮 ガバナンスの継続</b>	

※関心度は、シールの数が3以上のものに◎、1~2のものに○の評価としています

※項番43~52、55~59、60~61、69~71が、それぞれ模造紙でグルーピングされています

第4回推進委員会ワークショップまとめ (Gグループ)

項番	表紙番号	関心度※	シール数	キーワード	掘下げ
79	⑧	◎	7	<b>参加者のオンライン対応が進んでいない</b>	
80				個人的楽しみから得た知識や技術などを社会貢献的な活動につなげる方法がない(知られていない)	
81		○	1	活動と他の事項との優先順位の変化	
82				住民の活動への参加が促進されない	住民は活動への各々の役割がわからない
83				協働に対して参加したくない	
84		○	1	まじめ・ボランティア・市民活動は同じ・形式にこだわらない	
85		○	2	ガバナンス(規則等)の明確化・共有	
86		○	1	協働時期が年度で区切られている(3/4月は行政が忙しい?)	
87		○	1	会員への情報発信が難しい(郵送にかたより)	
88		○	1	団体内で作業が明確になっていない役割分担	
89		○	1	地域でも高齢者が高齢者を支えている	若い人の参加の仕方が高齢者と若い人もわからない
90				いろいろな人と知り合えることがない	協働を知らない
91				未就学児を抱えたお母さんが孤立する	多世代がかかわる方法が分らない
92				つながりをもとうとしない	
93	⑪	◎	9	<b>第三者(自治体)の介入が不足している</b>	
94		○	1	信頼がやすい 情報発信	
95				責任をとりたくない	
96	⑫	◎	7	<b>活動の継続 仕切る人がいない 気をつかってしまう</b>	
97		○	1	後継者がいない	
98		○	1	年齢の差がある	
99				時間的・金銭的余裕	
100				代表がやっていることが引き継がれていない	
101		○	1	創始者など強いリーダーシップを持つ人に頼りすぎている	
102				プロボノの活用が少ない	
103	⑬	◎	5	<b>市民活動団体と行政の事業の進め方の違いをお互いが理解できていない</b>	
104				行政側が、市民活動や協働事業を経験する機会が少ないため、理解が深まらない	
105		○	1	ガバナンスの継続に苦慮	
106				方向性の自覚	
107		○	2	世代間ギャップ	
108				財源の自立によるイベントの内部化	内部参加者減
109		○	2	行政のモチベーション	
110		○	2	時代のニーズに対応	
111		○	1	スピード感	
112				大上段に構えすぎている 身近なものでない	
113		○	2	助成金・補助金を得るノウハウを知らない団体	自治体からの広報・中止
114				助成金の申請時期が限定される	
115				どこまでしっかりやすのか基準・チェックリスト・ハンドブックがない	
116	⑭	◎	4	<b>活動のレベルアップの対応が難しい</b>	
117				人数やお金 規模の拡大	
118				ガバナンス	
119				理念や趣旨の共有	
120		○	1	受身	

※関心度は、シールの数が3以上のものに◎、1~2のものに○の評価としています  
 ※項番92~94、96~97が、それぞれ模造紙でグルーピングされています